

# 夫婦の役割期待の推移と比較

## — 3つの役割調査の比較検討 —

久 武 綾 子

AYAKO HISATAKE

(家政学教室)

### I はじめに

夫婦の役割については、近年、共働き家族の増大によって夫婦の役割分担や役割代替可能性等について社会学や家政学の面からいろいろ取ざたされている。すなわち夫婦の役割構造についての調査研究をみると、まず昭和37年に小山氏らによる調査報告があることはすでによく知られている。<sup>(1)</sup>次にその10年後、丸山直子氏による雇用家族夫婦を対象にした報告がある。<sup>(2)</sup>さらに昭和50年に愛知県を調査地域とした拙稿<sup>(3)</sup>がある。ところがこの3つの調査報告は、それぞれ調査の目的が違っているので質問の内容も異っている。したがって3つの調査報告を簡単に比較検討することは困難である。そこで今回、筆者は3つの調査報告にいろいろ手を加え、夫婦の役割期待の時代の推移による変化、妻の職業の有無による差異および問題夫婦と一般夫婦の比較、以上の3点について分析し図説したので報告する。

### II 考察と分析

#### 1. 3つの調査報告の比較

本稿は、昭和37年、昭和47年、昭和50年の役割に関する調査報告を資料<sup>(1)(2)(3)</sup>とし修正を加えた値を基として比較検討するものであるが、まずその調査方法やその対象の諸属性について簡単に表1にまとめた。詳細は各原著を参照されたい。

#### 2. 資料の整理方法

##### 1) 役割調査項目の整理

昭和37年の調査は、一般夫婦と問題夫婦（昭和37年3月から昭和39年10月までの間、夫婦関係調整等の事件として東京家庭裁判所に申立てた夫婦間に問題がある夫婦100ケース）との差をみるため質問項目が設定されており、夫用と妻用とがあり役割調査項目がそれぞれ違っており、質問紙は役割期待と役割実現と役割自己認知の三部から構成されている。

昭和47年の調査は、雇用者家族において妻が無職か有職かによってどのような差があるかをみるのが目的で質問が考えられており、夫と妻は同じ役割調査項目で尋ねられている。

昭和50年の調査は、夫婦の役割分担に対する期待と現実をみるための調査であるので、役割期待と役割実現の二部から構成されている。

表1 3つの調査の調査方法および対象諸属性

	昭和37年調査 <sup>1)</sup>	昭和47年調査 <sup>2)</sup>	昭和50年調査 <sup>3)</sup>
調査地域	東京都区部	東京都	愛知県の ① 商工業 ② 住宅地域 { 住宅 団地 ③ 農村 ④ 山村 ⑤ 漁村の5地域
標本抽出方法	東京都区部居住1203世帯から分析可能な対象109組を抽出し、対象者の自宅で夫婦べつべつに面接して記入してもらう方法	妻無職夫婦は一地域でまとめて53組、妻有職夫婦は保育所、事業所を通じて62組質問紙を配布留置き被調査者に自記させる方法	上記5地域に所在する小・中学校17校を無作為抽出し、児童、生徒を通じ両親に質問紙を配布して記入依頼し、後、回収した
調査対象総数	一般家庭 109組 問題夫婦 100組	妻無職夫婦 53組 妻有職夫婦 62組	配布数 1971 回収数 1855 回収率 94.1%
家族構成別	一般夫婦 夫のみ 6.4% 夫婦と未婚 72.5% 拡大家族 21.1%	夫婦のみ 27% 夫婦と子 53% 拡大家族 20%	{ 夫婦家族 63.8% 直系家族 36.0%
年齢階層別	一般夫婦 若年夫婦 17.5% 中年夫婦 45.0% 老年夫婦 37.5%	若年 44.3% 中年以上 55.6%	夫の年齢 40代……60.1% 30代……34.3% 妻の年齢 30代……67.8% 40代……29.9%
夫の職業別	一般夫婦 職員勤務者 33.0% 労務勤務者 21.1% 自家営業者 35.8% その他 10.1%	会社員と公務員が大半をしめている	専門、管理……14.8% 事務……25.0 販売、サービス15.8 農林・漁業……6.6 運輸・通信……4 技能・労務……22.8

1) 小山隆編：現代家族の役割構造 培風館 1967

2) 丸山直子：都市雇用家族夫婦の役割構造 家庭科教育 No47 V. 8 1973

3) 久武綾子：夫婦の役割分担に対する期待と現実 家政学雑誌 No28 V. 2 1977

## 2) 役割調査項目の整理方法

以上述べたように3つのそれぞれ目的の異った調査であるので、質問の項目も違っているが、役割の推移をみるためには、まず質問の項目を内容によって整理する必要がある。そこで3つの調査のうち、昭和47年の調査が領域別に設問されているのが便宜であると思われるのでそれにならって表2のように項目を勘案し整理した。但し、教育の領域は昭和47年調査にはない。

夫婦の役割期待の推移と比較

表2 調査項目の整理

領域	昭和37年調査		昭和47年調査	昭和50年調査
	夫の妻に対する期待	妻の夫に対する期待	夫の妻に対する期待 妻の夫に対する期待	妻の夫に対する期待 ( )内夫向
家庭管理	計画性 やりくり  祖先の祭 経済的協力	計画性 家計一任 家庭の中心  生活費を入れる 仕事熱心 家庭を犠牲にしない	計画性 家計に注意 家庭のどんらん 重大問題の決定  生活費を入れる 職務熱心 家庭にいる時間多く	収入・支出配慮  神仏の祭祀 月給袋のまま渡す (妻の収入をタシにす)
家事労働	家事熱心  整理整頓	家事理解 家事分担	炊事、後片付  そうじ・洗たく  こわれ物修理 食料品買出 整理整頓	寝具の整理 炊事(に協力) 食事(の後片付) そうじ(の手伝) 洗たく(の手伝) 食料品等の買物 身のまわりの整理 こわれ物の修繕 戸締・火の元
交際	夫の親大事  夫の身内交際 夫の世話 交際の調和  社会に関心	夫の親より夫婦中心  妻の身内交際  会合出席認める  社会に関心	相手の親や親類大切  自分の親や親類大切  近所つきあい 社会問題に関心	老人の世話 乳幼児の世話 親類つきあい  近所つきあい
夫婦協調	話しあい  思いやり  夫に従順 差出がましくない 夫の交際理解  趣味娯楽一致 食物好み一致 性生活調和  夫の仕事理解 異性関係もため 身だしなみ	相談相手  思いやり  暴力しない  飲酒しない 賭事しない 趣味娯楽一致 食物好み一致 性生活調和  家事不干涉 異性関係もため	相手の話をきく 自分の行動を話す 相手の行動認む 相手の健康配慮  趣味娯楽一致  性生活調和 夫婦で遊ぶ 教養をますよう 相手の職業(活動) 理解	
教育	教育熱心 子供可愛がる	教育熱心 子供可愛がる		成績に気を配る 遊び相手になる 態度を注意する 保護者会に出席 進路の相談決定
計	24項目	24項目	25項目	21項目

3. 調査内容

1) 夫婦の役割期待の推移

a. 夫の妻に対する期待

① 昭和37年調査の期待値の修正

昭和37年調査は期待の最も弱いのを5とし最も強いものを1としてあるが、昭和47年調査は最も弱いのが0で最も強いのが4である。したがってそのままでは比較できないので昭和37年調査を昭和47年調査に合わせて修正した。その修正した値は表3-1に示すとおりである。

② 昭和47年調査、50年の整理と修正

(ア) 期待項目の記入

表2によって昭和37年調査に該当すると思われる項目を記入。

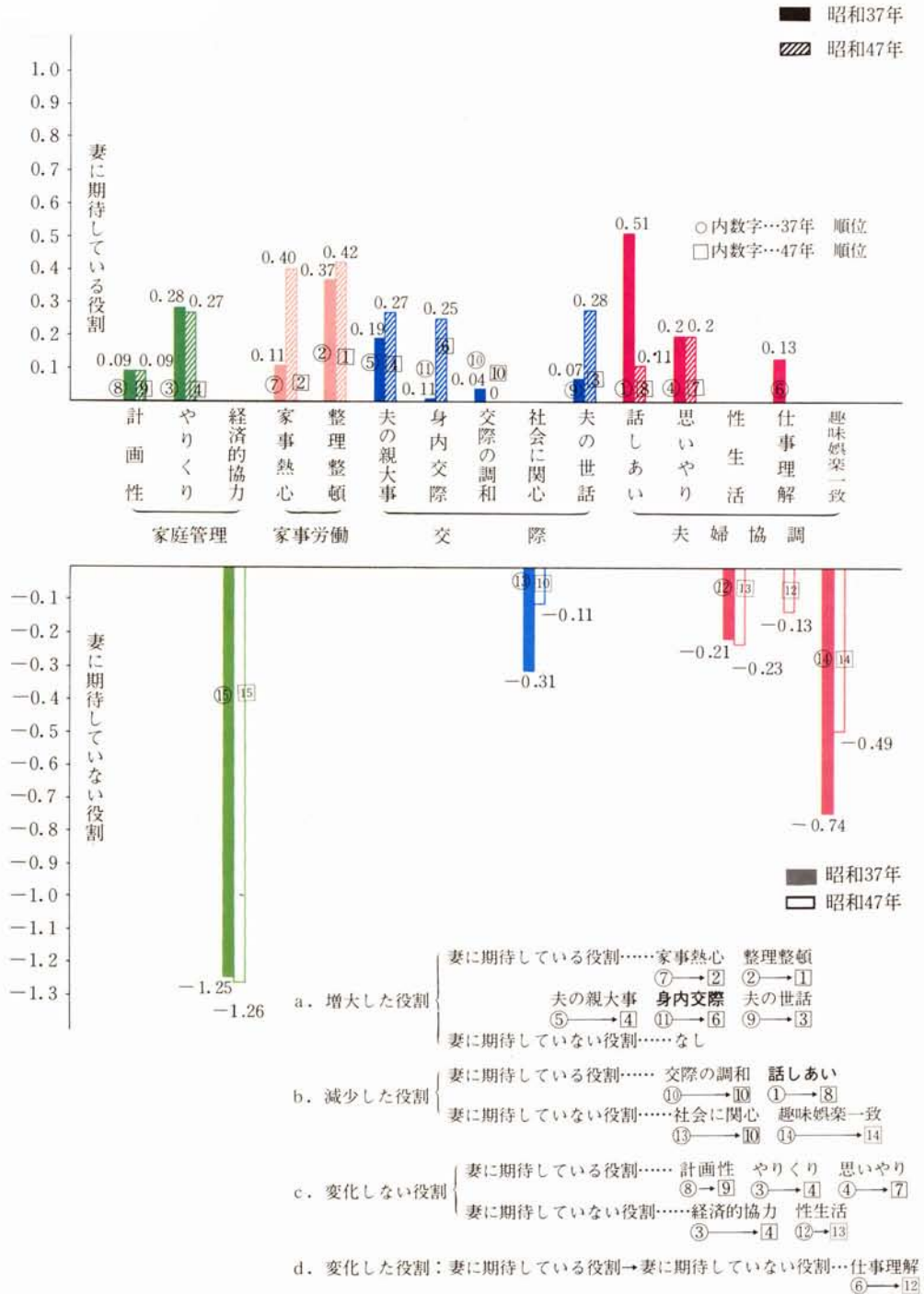
表3-1 夫の妻に対する役割期待の推移 昭和37年, 47年, 50年

昭和37年調査 1)				昭和47年調査 2)				昭和50年調査 3)				
37年順位	37年項目	修正値	平均値-修正値	新順位	該当する47年の項目	期待値	平均値-期待値	新順位	該当する50年の項目	期待値	平均値-期待値	新順位
1	話しあい	3.52	0.51	1	相手の話, 自分の行動	3.33	0.11	8				
2	教育熱心	3.45	0.44						子のしつけ成績進路	2.59	0.02	7
3	子供可愛がる	3.42	0.41						乳幼児の世話, 子の遊び	2.82	0.25	3
4	異性関係											
5	整理整頓	3.38	0.37	2	整理整頓	3.64	0.42	1	身の回りの整頓	2.92	0.35	2
6	やりくり	3.29	0.28	3	家計に注意	3.49	0.27	4	支出配慮	2.73	0.16	5
7	思いやり	3.21	0.20	4	相手の話, 行動, 健康	3.42	0.20	7				
8	夫の親大事	3.20	0.19	5	自分の親や親類大切	3.49	0.27	4	老人の世話	2.78	0.21	4
9	身だしなみ											
10	仕事理解	3.14	0.13	6	相手の職業の理解	3.09	-0.13	12				
11	家事熱心	3.12	0.10	7	炊事, そうじ, 洗濯, 食料品買出	3.62	0.40	2	寝具の整理, 炊事, 後片付け, そうじ, 洗濯, 買物, 戸締, 火の元	3.02	0.45	1
12	計画性	3.10	0.09	8	計画性	3.31	0.09	9				
13	夫の世話	3.08	0.07	9	相手の健康に気を配る	3.50	0.28	3				
14	交際の調和	3.05	0.04	10	近所づきあい	3.11	-0.11	10	保護者会出席, 近所づきあい	2.63	0.06	6
15	身内交際	3.02	0.01	11	相手の親, 親類大切 自分の親, 親類大切	3.47	0.25	6	親類づきあい	2.45	-0.12	8
16	夫の交際											
17	性生活調和	2.80	-0.21	12	性生活調和	2.99	-0.23	13				
18	夫に従順											
19	祖先の祭	2.72	-0.29						神仏の祭祀	2.18	-0.39	9
20	社会に関心	2.70	-0.31	13	社会問題に関心	3.11	-0.11	10				
21	差出がましくない											
22	趣味娯楽一致	2.27	-0.74	14	趣味娯楽一致	2.73	-0.49	14				
23	食物好み一致											
24	経済的協力	1.76	-1.25	15	生活費入れる	1.96	-1.26	15	妻の収入をたしにする	1.56	-1.01	10
非該当					だんらん, 重大問題 職務熱心, 家庭時間 修理, 夫婦で遊ぶ 教養をます				こわれ物修繕			
平均値		3.01			平均値	3.22			平均値	2.57		

図1-1 夫の妻に対する役割期待の推移

昭和37年，47年

[平均値と期待値との隔りによる]



(イ) 各項目の期待値を求める。

昭和47年調査は妻が有職と無職とあるがその区別は不用なので両者の値を平均し、さらに調整上、2項目以上の場合はその平均を求めた。50年調査も同様である。

(ウ) 新順位をつける。

(イ)で求めた各項目の期待値が平均値からどれだけ隔っているか、その値によって期待値の高低の順位をつけた。

以上のようにして、夫の妻に対する期待の推移を表にしたのが表3-1であり、これを図示したのが図1-1である。

表3-1で期待値が正の値となるのは、妻に期待される役割で、負の値となるのは、妻に期待されない役割であり図1-1では、上下に分けて区分した。

**b. 妻の夫に対する期待**

a. の夫の場合と同様に求めその結果を表3-2および図1-2に図示した。

**表3-2 妻の夫に対する役割期待の推移 昭和37年, 47年, 50年**

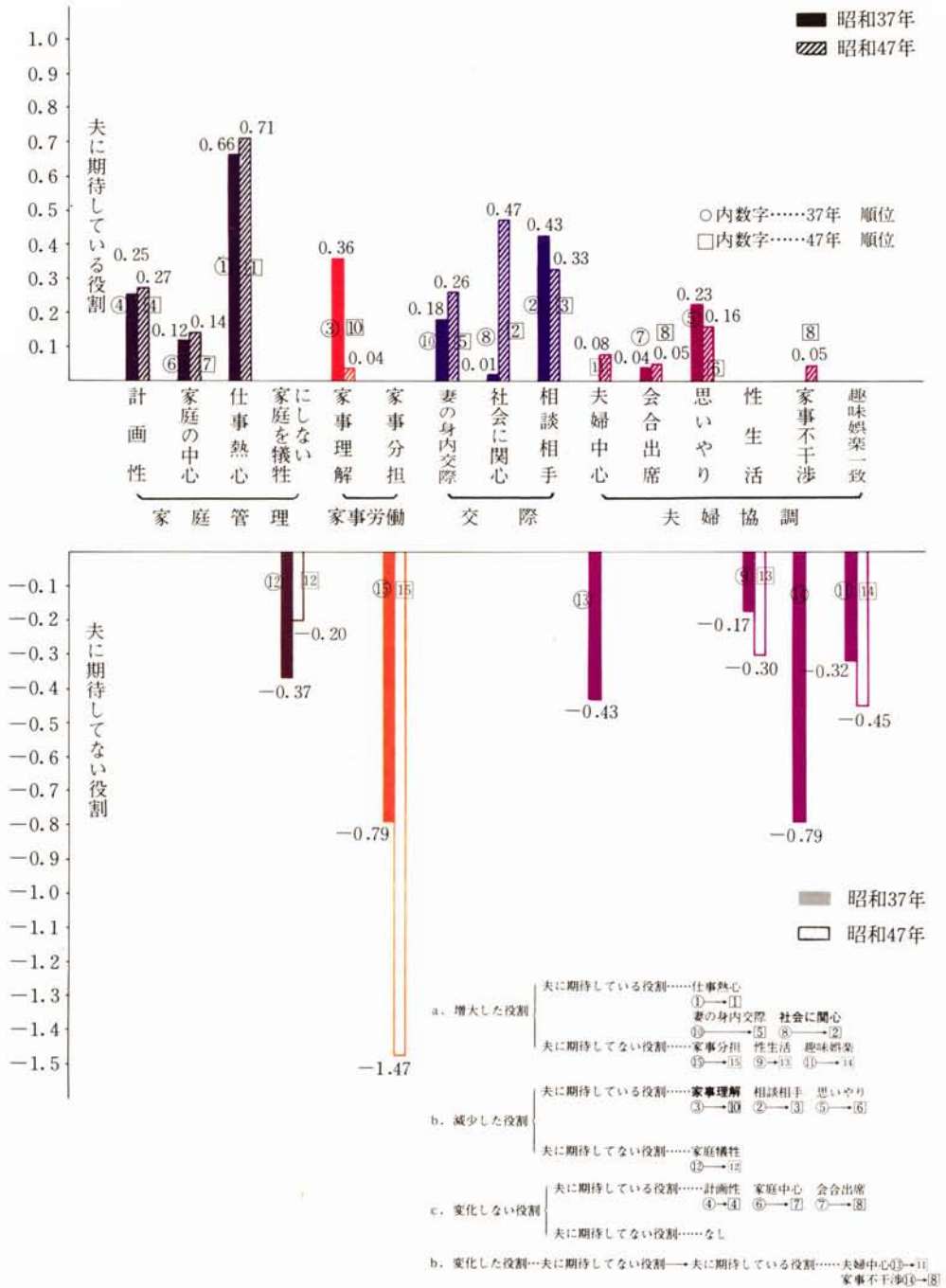
37年 順位	37年項目	修正値	平均値- 修正値	新 順位	該当する47年の項目	期待値	平均値- 期待値	新 順位	該当する50年の項目	期待値	平均値- 期待値	新 順位
1	仕事熱心	3.64	0.66	1	職務熱心	3.85	0.71	1				
2	暴力しない											
3	相談相手	3.41	0.43	2	相手の話をきく	3.47	0.33	3				
4	家事を理解	3.34	0.36	3	相手の活動を理解	3.18	0.04	10				
5	子供可愛がる	3.33	0.35						子の遊び, 乳幼児の世話	2.28	0.01	4
6	教育熱心	3.24	0.26						子のしつけ, 成績, 進路	2.54	0.25	3
7	計画性	3.23	0.25	4	計画性	3.41	0.27	4				
8	勝手しない											
9	思いやり	3.21	0.23	5	相手の健康	3.30	0.16	6				
10	異性関係											
11	家計一任	3.15	0.17						月給袋のまま渡す	2.99	0.70	1
12	家庭の中心	3.10	0.12	6	だんらん	3.28	0.14	7				
13	生活費入れる											
14	会合出席認める	3.02	0.04	7	相手の行動活動を理解	3.19	0.05	8				
15	社会に関心	2.99	0.01	8	社会問題関心	3.61	0.47	2				
16	性生活調和	2.81	-0.17	9	性生活調和	2.84	-0.30	13				
17	妻の身内交際	2.80	-0.18	10	自分の親や親類大切	3.40	0.26	5	親類づきあい	2.62	0.33	2
18	趣味娯楽一致	2.68	-0.3	11	趣味娯楽一致	2.69	-0.45	14				
19	食物好み一致											
20	家庭犠牲せぬ	2.61	-0.37	12	家庭にいる時間多く	2.94	-0.20	12				
21	夫婦中心	2.55	-0.43	13	夫婦で遊び	3.06	-0.08	11				
22	家事不干渉	2.33	-0.65	14	相手の活動理解	3.19	0.05	8				
23	家事分担	2.19	-0.79	15	炊事, そうじ, 洗濯 食料品買出	1.67	-1.47	15	寝具の整理, 炊事, 後片付 そうじ, 洗濯, 買物 戸締, 火の元	1.02	-1.27	5
24	飲酒しない											
非 該当					重大問題, 家計, 生活費 修理, 整理整頓 相手の親や親類 近所づき合, 自分の行動話す 教養をます				こわれ物修繕, 身の回り の整頓, 神仏の祭祀 収入・支出配慮, 保護者 会出席, 老人の世話 近所づきあい			
平 均 値		2.98			平 均 値	3.14			平 均 値	2.29		

夫婦の役割期待の推移と比較

図1-2 妻の夫に対する役割期待の推移

昭和37年, 47年

[平均値と期待値との隔たりにによる]



1) の夫婦役割期待の推移は、表3-1、表3-2および図1-1、図1-2によって把握できるわけであるが、わかり易くするため、各期待項目の平均値からの隔たりの値の大小によって役割期待の新順位を求め、昭和37年調査と昭和47年調査を比較したのが次に示す表4-1である。

表4-1を概観すると、夫と妻の役割期待はほとんどの項目は同位か、1、2位のズレが認められる程度である。したがって役割期待に対する昭和37年と昭和47年の変化はほとんどみられない。

ただ目立つのは、妻に対する話しあい、思いやり、仕事理解および夫に対する家事理解の下降と、妻に対する家事熱心、夫の世話、身内交際および夫に対する社会に関心、身内交際、家事不干涉の上昇である。

表4-1 昭和37年調査と昭和47年調査との比較

夫の妻に対する役割期待					妻の夫に対する役割期待				
平均値との差	昭和37年	順位	昭和47年	平均値との差	平均値との差	昭和37年	順位	昭和47年	平均値との差
0.51	話しあい	1	整理整頓	0.42	0.66	仕事熱心	1	仕事熱心	0.71
0.37	整理整頓	2	家事熱心	0.40	0.43	相談相手	2	社会に関心	0.47
0.28	やりくり	3	夫の世話	0.28	0.36	家事を理解	3	相談相手	0.33
0.20	思いやり	4	やりくり	0.27	0.25	計画性	4	計画性	0.27
0.19	夫の親大事	5	夫の親大事	0.27	0.23	思いやり	5	身内交際	0.26
0.13	仕事理解	6	身内交際	0.25	0.12	家庭の中心	6	思いやり	0.16
0.10	家事熱心	7	話しあい	0.20	0.04	会合出席	7	家庭の中心	0.14
0.09	計画性	8	話しあい	0.11	0.01	社会に関心	8	会合出席	0.05
0.07	夫の世話	9	計画性	0.09	-0.17	性生活調和	9	家事不干涉	0.05
0.04	交際調和	10	交際調和	-0.11	-0.18	身内交際	10	家事を理解	0.04
0.01	身内交際	11	社会関心	-0.11	-0.30	趣味娯楽	11	夫婦中心	-0.08
-0.21	性生活	12	仕事理解	-0.13	-0.37	家庭犠牲	12	家庭犠牲	-0.20
-0.31	社会に関心	13	性生活	-0.23	-0.43	夫婦中心	13	性生活	-0.30
-0.74	趣味娯楽	14	趣味娯楽	-0.49	-0.65	家事不干涉	14	趣味娯楽	-0.45
-1.25	経済協力	15	経済協力	-1.26	-0.79	家事分担	15	家事分担	-1.47

→ 上昇した役割期待 注) 昭和47年役割期待項目は、昭和37年のそれに合わせた。  
 ↓ 下降した役割期待

表4-2 昭和37年調査と昭和50年調査との比較

夫の妻に対する役割期待					妻の夫に対する役割期待				
平均値との差	昭和37年	順位	昭和50年	平均値との差	平均値との差	昭和37年	順位	昭和50年	平均値との差
0.44	教育熱心	1	家事熱心	0.45	0.35	子供可愛がる	1	家計一任	0.70
0.41	子供可愛がる	2	整理整頓	0.35	0.26	教育熱心	2	妻の身内交際	0.33
0.37	整理整頓	3	子供可愛がる	0.25	0.17	家計一任	3	教育熱心	0.25
0.28	やりくり	4	夫の親大事	0.21	-0.18	妻の身内交際	4	子供可愛がる	0.01
0.19	夫の親大事	5	やりくり	0.16	-0.79	家事分担	5	家事分担	-1.27
0.10	家事熱心	6	交際の調和	0.06					
0.04	交際の調和	7	教育熱心	0.02					
0.01	身内交際	8	身内交際	-0.12					
-0.29	祖先の祭	9	祖先の祭	-0.39					
-1.25	経済協力	10	経済協力	-1.01					



以上、表4-1を総括してみると、昭和37年、昭和47年とも、夫は仕事、妻は家庭という伝統的な役割分担が認められることである。次に、夫も妻も身内交際の上昇であるが、このことは、核家族化の増大によって身内の交際が疎縁になっていることに対する逆の期待と推測される。

次に昭和37年調査と昭和50年調査とを比較したのが表4-2である。

昭和47年調査との違いは、昭和50年調査では表2に示したように、役割項目に教育面をとり入れている点である。

表4-2を概観すると、夫も妻も伝統的な夫と妻の役割分担を期待していることは表4-1と同様である。ところが、夫も妻も教育熱心、子供可愛いがるの2項目は順位が下降しており、昭和37年ころに比べると子離れの現象がみられ、過熱といわれた教育に対する反省の傾向がうかがわれる。

## 2) 夫婦の役割期待は妻の有職、無職によってどう違うか。

妻の職業の有無によって夫婦の役割期待にどのような差が認められるかどうかは、単に単純集計②をそのまま比較しただけではわかりにくい。

そこで妻に対する期待値－夫に対する期待値＝ $a$  この値をみることによって、その役割を実行することを期待されているのが妻なのか夫なのかという、その期待の程度を知ることができる。つまりその値が正の値ならば妻の方に、負の値ならば夫の方に役割が期待される。すなわち定性的・定量的に役割期待値を測ることができる。なおこの値によって期待の高低の順位を知ることでもできる。算出方法は22頁の表5に示した。

以上のように計算した結果を図示したのが次頁の図2である。

図2、によって有職妻と無職妻のあいだの期待のされ方の違いをみると以下のようなようである。

### ① 総体的な違い

図2、の上部に記入しておいたように有職妻の $a \leq 0$ の値の合計は8.06となり、無職妻は11.76でこの差4.14が、無職妻の方に期待が多い分である。

### ② 役割期待の差が大きい項目

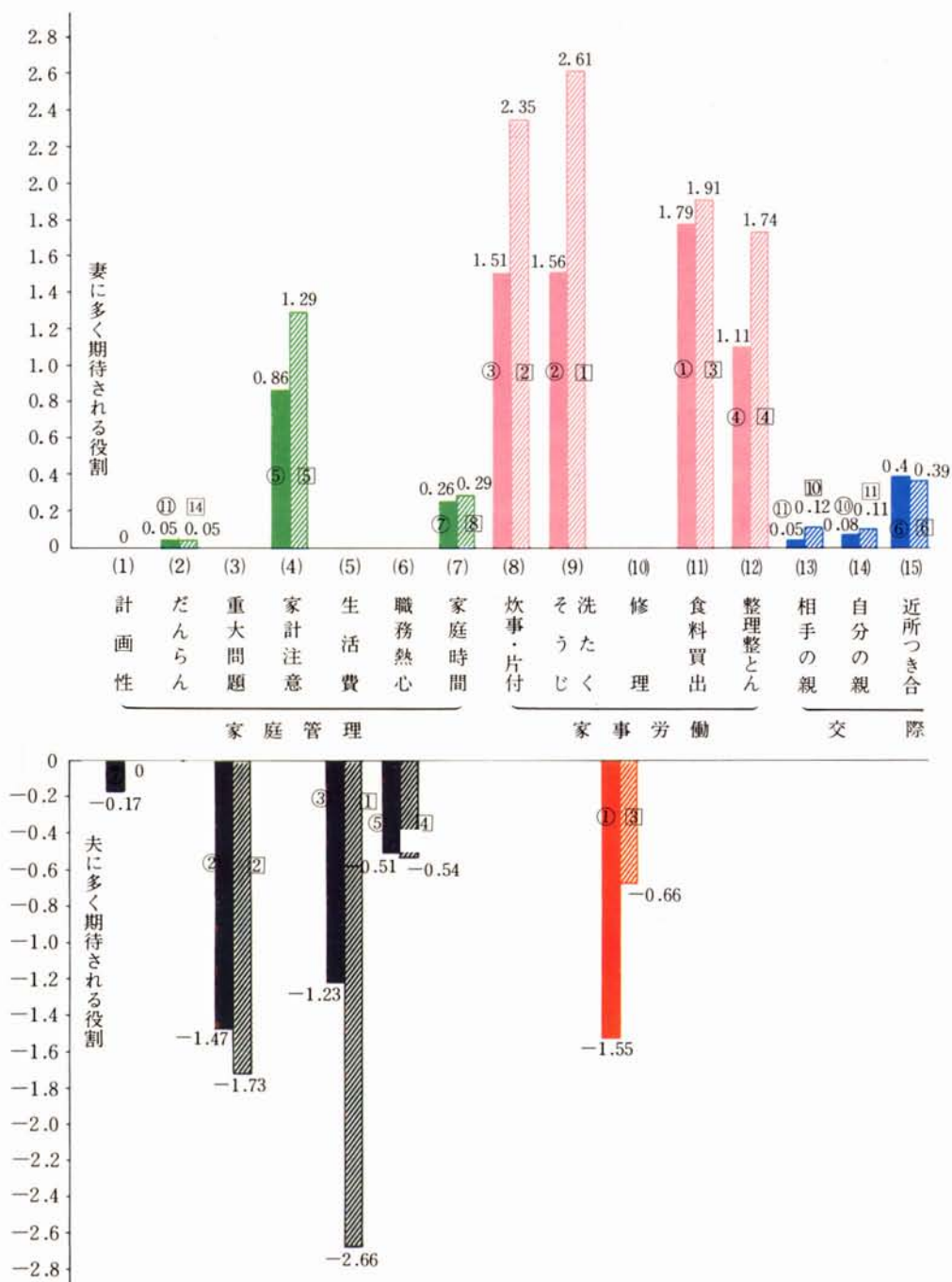
図2、の下部に詳細に記入してある事項を要約すると、無職妻の方には夫から家計に注意し、家事労働をよくやるよう期待され、有職妻の方は、こわれた箇所の修繕を無職妻より多く夫にやってもらいたいと期待しているのが目立つ。

なお、これについて、 $a$ の大きい順に10位まで並べたのが表6-1である。表についての説明は23頁で述べる。

### ③ 夫と妻の役割期待が同等か、差が小さい項目。

図2、によると、だんらん、近所づきあい、家庭にいる時間を多く、相手の話をきく、職務熱心という項目がみられる。

図2 夫に多く期待される役割，妻に多く期待される役割は，



夫婦の役割期待の推移と比較

妻の職業の有無によってどう違うか 昭和47年

[妻に対する夫の期待値—夫に対する妻の期待値=aの値による]

aの値によってみると、

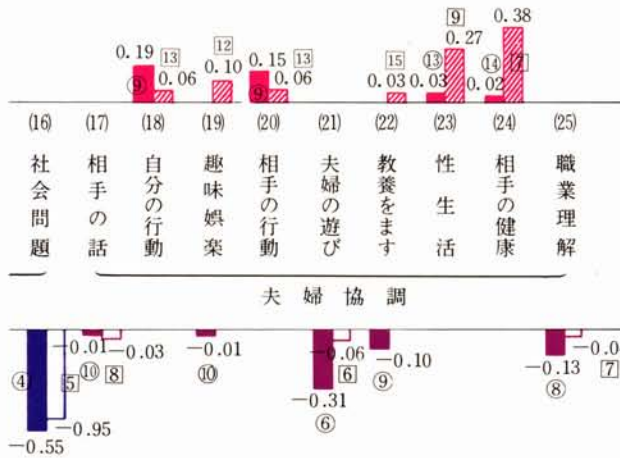
0 > aの場合…その役割項目の実行をより強く……下段期待されているのは夫の側

a ≒ 0の場合…その役割項目については夫も妻もお互に同程度期待しあっている

0 < aの場合…その役割項目の実行をより強く……上段期待されているのは妻の側である

■ 有職妻 ○内数字はaの高低順位  
 ▨ 無職妻 □内数字はaの高低順位

	有職妻	無職妻
0 > a	-5.73	-6.17
a ≧ 0	8.06	11.76



- 妻に多く期待される役割
  - 無職妻の方に期待が大きい役割……(4)家計注意 (8)炊事片付 (9)そうじ洗たく (11)食料買出 (12)整理整頓 (13)相手の親 (14)自分の親 (23)性生活 (24)相手の健康
  - 有職妻の方に期待が大きい役割……(18)自分の行動 (20)相手の行動
  - 有職妻、無職妻も期待が同等……(2)だんらん (15)近所つき合 (7)家庭時間
- 夫に多く期待される役割
  - 無職妻の方に期待が大きい役割……(3)重大問題 (5)生活費
  - 有無妻の方に期待が大きい役割……(10)修理 (16)社会問題 (21)夫婦の遊び (25)職業理解 (1)計画性
  - 有職妻、無職妻も期待が同等……(17)相手の話 (6)職務熱心
- 夫、妻ともに期待される役割
  - 無職妻の方に期待が大きい役割……(19)趣味娯楽
  - 有職妻の方に期待が大きい役割……(22)教養をます (1)計画性

表5 妻に対する役割期待値—夫に対する役割期待値—aの求め方

a = 正の値：妻に多く期待される役割

a = 負の値：夫に多く期待される役割

領域別	役割項目	妻有職夫婦 (62組)				役割項目	妻無職夫婦 (53組)			
		夫の妻に対する期待値	妻の夫に対する期待値	(妻に対する期待値) - (夫に対する期待値) a	順位 □内夫の役割		夫の妻に対する期待値	妻の夫に対する期待値	(妻に対する期待値) - (夫に対する期待値) a	順位 □内夫の役割
家庭管理	①生活全体に計画性をもつ	3.27	3.44	-0.17	7	①生活全体に計画性をもつ	3.38	3.38	0	
	②家庭だんらんを中心となる	3.39	3.34	0.05	11	②家庭だんらんを中心となる	3.28	3.23	0.05	14
	③家庭の重大問題の決定者になる	2.24	3.71	-1.47	2	③家庭の重大問題の決定者になる	2.00	3.73	-1.73	2
	④家計に常に注意をはらう	3.47	2.61	0.86	5	④家計に常に注意をはらう	3.51	2.22	1.29	5
	⑤きまった生活費をきちんと入れる	2.61	3.84	-1.23	3	⑤きまった生活費をきちんと入れる	1.32	3.98	-2.66	1
	⑥自分の職務を熱心に果たす	3.36	3.87	-0.51	5	⑥自分の職務を熱心に果たす	3.29	3.83	-0.54	4
	⑦家庭にいる時間をなるべく多くする	3.36	3.10	0.26	7	⑦家庭にいる時間をなるべく多くする	3.06	2.77	0.29	8
家事労働	⑧炊事したり・あとかたづけをしたりする	3.66	2.15	1.51	3	⑧炊事したり・あとかたづけをしたりする	3.65	1.30	2.35	2
	⑨そうじ・洗濯をする	3.64	2.08	1.56	2	⑨そうじ・洗濯をする	3.72	1.11	2.61	1
	⑩こわれた箇所の修理をする	1.89	3.44	-1.55	1	⑩こわれた箇所の修理をする	2.43	3.09	-0.66	3
	⑪食料品の買出しをする	3.52	1.73	1.79	1	⑪食料品の買出しをする	3.53	1.62	1.91	3
	⑫家庭の中を整理整頓する	3.63	3.52	1.11	4	⑫家庭の中を整理整頓する	3.66	1.92	1.74	4
	⑬相手の親や親類を大切ににする	3.44	3.39	0.05	11	⑬相手の親や親類を大切ににする	3.45	3.33	0.12	10
	⑭自分の親や親類を大切ににする	3.52	3.44	0.08	10	⑭自分の親や親類を大切ににする	3.47	3.36	0.11	11
交際	⑮近所づき合いを大切ににする	3.11	2.71	0.40	6	⑮近所づき合いを大切ににする	3.11	2.72	0.39	6
	⑯社会問題に強い関心をもつ	3.03	3.58	-0.55	4	⑯社会問題に強い関心をもつ	3.19	3.64	-0.45	5
	⑰相手の話をよくきく	3.52	3.53	-0.01	10	⑰相手の話をよくきく	3.38	3.41	-0.03	8
	⑱自分の行動を相手によく話す	3.34	3.15	0.19	8	⑱自分の行動を相手によく話す	3.10	3.04	0.06	12
	⑲相手と趣味娯楽を合わせる	2.74	2.75	-0.01	10	⑲相手と趣味娯楽を合わせる	2.73	2.63	0.10	12
夫婦協調	⑳相手の自由行動を認める	3.33	3.18	0.15	9	⑳相手の自由行動を認める	3.27	3.21	0.06	6
	㉑夫婦二人で遊びに出るよう努める	2.95	3.26	-0.31	6	㉑夫婦二人で遊びに出るよう努める	2.79	2.85	-0.06	15
	㉒教養を増すように努める	3.35	3.45	-0.10	9	㉒教養を増すように努める	3.38	3.35	0.03	9
	㉓性生活の調和をはかる	3.03	3.00	0.03	13	㉓性生活の調和をはかる	2.96	2.69	0.27	7
	㉔相手の健康によく気を配る	3.50	3.48	0.02	14	㉔相手の健康によく気を配る	3.50	3.12	0.38	7
	㉕相手の職業(活動)を理解し、援助する	3.25	3.38	-0.13	8	㉕相手の職業(活動)を理解し、援助する	2.94	2.98	-0.04	7
	項目全体平均	3.21	3.13			項目全体平均	3.12	2.90		

夫婦の役割期待の推移と比較

表6-1はaの値の絶対値が大きい順10位までを並べた。表によると、1位から10位までの役割項目は、妻が有職でも無職でも順位こそ違え同じ項目である。妻が働いても夫は食料品の買出しを妻に期待し、その代りに妻は、こわれた箇所の修繕は夫にしてもらいたいといっている。妻が無職の場合は、まず夫に生活費をきちんと入れることを期待し、こわれた箇所の修繕は昼間家にいるから自分でできれば直すという態度がうかがわれる。このように妻が働いていてもいなくても夫と妻の役割分担が認められるのである。

なお、家庭の重大問題の決定者は、妻の有職、無職にかかわらず夫が決定者であるが、もっと妻の参加が望まれる項目である。

表6-1 aの値の絶対値の大きい順に10位まで

妻 有 職			妻 無 職		
aの値	役 割 項 目	順位	役 割 項 目	順位	aの値
+1.79	食料品の買出し	1	生活費きちんと	1	-2.66
+1.56	そうじ, 洗たく	2	そうじ, 洗たく	2	+2.61
-1.55	こわれた箇所修繕	3	炊事, 後かたつけ	3	+2.35
+1.51	炊事, 後かたつけ	4	食料品の買出し	4	+1.91
-1.47	重大問題の決定者	5	家庭内整理整頓	5	+1.74
-1.23	生活費きちんと	6	重大問題の決定者	6	-1.73
+1.11	家庭内整理整頓	7	家計に注意	7	+1.29
+0.86	家計に注意	8	こわれた箇所修繕	8	-0.66
-0.55	社会問題に関心	9	自分の職務熱心	9	-0.54
-0.51	自分の職務熱心	10	社会問題に関心	10	-0.45

注 → 上昇 (差3位以上) + 妻に多く期待される役割  
 ↓ 下降 (差3位以上) - 夫に多く期待される役割

これをさらに考察するためaの値の絶対値の小さい順に10位並べたのが表6-2である。aの値が小さいということは、夫と妻が協力して実行しているとみるべきである。したがってこの役割項目についてはあまり問題はない。

表6-2 aの値の絶対値の小さい順に10位まで

妻 有 職			妻 無 職		
aの値	役 割 項 目	順位	役 割 項 目	順位	aの値
-0.01	相手の話をきく	1	生活の計画性	1	0
-0.01	趣味娯楽の一致	2	相手の話をきく	2	-0.03
+0.02	相手の健康配慮	3	教養をますよう	3	+0.03
+0.03	性生活の調和	4	相手の職業理解	4	-0.04
+0.05	だんらんの中心	5	だんらんの中心	5	+0.05
+0.05	相手の親や親類	6	自分の行動話す	6	+0.06
+0.08	自分の親や親類	7	相手の行動認む	7	+0.06
-0.10	教養をますよう	8	夫婦二人で遊ぶ	8	-0.06
-0.13	相手の職業理解	9	趣味娯楽の一致	9	+0.10
+0.15	相手の行動認む	10	自分の親や親類	10	+0.11

注：ゴシック体は右側と左側のどちらかにしかない役割項目

## 3) 問題夫婦と一般夫婦

本稿の昭和37年調査<sup>1)</sup>というのは、もともと問題夫婦と一般夫婦を比較するために実施された調査であることは、すでに述べた。当時と現在では家族構造や社会構造も変化しているのでもっと新しい資料によって比較したいのであるが、その後この種の報告がないのでこの調査によった。

なお問題夫婦とは、夫婦関係調整等の事件として東京家庭裁判所に申立てた夫婦間に問題がある夫婦100ケースである。

## ① 夫婦の役割期待

夫婦の役割期待を問題夫婦と一般夫婦の期待値の大小によって順位の序列を比較した

表7-1 問題夫婦と一般夫婦の比較 (夫婦の役割期待)

夫の妻に対する役割期待				妻の夫に対する役割期待					
期待値	問題夫婦	順位	一般夫婦	期待値	期待値	問題夫婦	順位	一般夫婦	期待値
1.38	異性関係	1	話しあい	1.48	1.43	暴力せぬ	1	仕事熱心	1.36
1.50	子供可愛	2	子供教育	1.55	1.45	仕事熱心	2	暴力せぬ	1.46
1.56	話しあい	3	子供可愛	1.58	1.52	子供可愛	3	相談相手	1.59
1.62	子供教育	4	異性関係	1.60	1.53	異性関係	4	家事理解	1.66
1.77	整理整頓	5	整理整頓	1.62	1.61	相談相手	5	子供可愛	1.67
1.78	親を大切	6	やりくり	1.71	1.71	計画性	6	子供教育	1.76
1.83	思いやり	7	思いやり	1.79	1.74	子供教育	7	計画性	1.77
1.85	家事熱心	8	親を大切	1.80	1.77	家計	8	賭事せぬ	1.78
1.86	計画性	9	身だしなみ	1.82	1.81	思いやり	9	思いやり	1.79
1.90	仕事理解	10	仕事理解	1.86	1.91	家事理解	10	異性関係	1.81
		⋮					⋮		
2.04	他人交際	15	身内交際	1.98	2.31	夫婦中心	15	会合出席	1.98
2.06	身だしなみ	16	交際理解	2.13	2.35	会合出席	16	性生活	2.19
2.17	身内交際	17	性生活	2.20	2.36	生活費	17	身内交際	2.20
2.25	夫の世話	18	夫に従順	2.21	2.38	身内交際	18	趣味娯楽	2.32
2.45	政治社会	19	祖先の祭	2.28	2.54	趣味娯楽	19	食物好み	2.37
2.51	祖先の祭	20	政治社会	2.30	2.68	食物好み	20	家庭犠牲	2.39
2.53	差出ない	21	差出ない	2.69	2.73	家庭犠牲	21	夫婦中心	2.45
2.61	趣味娯楽	22	趣味娯楽	2.73	2.94	家事干渉	22	家事干渉	2.67
2.93	食物好み	23	食物好み	2.76	2.97	飲酒せぬ	23	家事分担	2.81
3.28	経済協力	24	経済協力	3.24	3.23	家事分担	24	飲酒せぬ	3.00
平均値 = 2.08				2.05	平均値 = 2.12				2.05

期待値は数が小さい方が期待度が強い

夫婦の役割期待の推移と比較

のが表7-1である。

表7-1を概観すると、問題夫婦と一般夫婦の各項目の順位は、1, 2位のズレがみられる程度でその平均値が接近していることからわかるように大差はない。だが、夫も妻も異性関係において問題夫婦の方が期待の順位が上位なのは、離婚原因の一つとして異性関係があげられるのを示唆している。

表7-2 問題夫婦と一般夫婦の比較 (役割期待と役割実現のズレの大きい順)

妻の役割におけるズレ					夫の役割におけるズレ				
ズレ	問題夫婦	順位	一般夫婦	ズレ	ズレ	問題夫婦	順位	一般夫婦	ズレ
1.98	話しあい	1	やりくり 計画性	0.59	1.84	相談相手	1	計画性	0.50
1.88	思いやり	2			1.71	思いやり 家事理解	2	子供教育	0.39
1.85	夫に従順	3	身だしなみ	0.56			3	相談相手 家事理解	0.30
1.80	親を大切	4	整理整頓	0.44	1.63	計画性	4		
1.61	仕事理解	5	話しあい	0.42	1.62	子供教育	5	政治社会	0.28
1.51	身内交際	6	子供教育	0.39	1.49	夫婦中心	6	生活費	0.27
1.50	計画性	7	政治社会	0.38	1.26	身内交際	7	家庭犠牲	0.21
1.39	性生活	8	仕事理解	0.30	1.25	暴力せぬ	8	夫婦中心 異性関係	0.19
1.37	交際理解	9	性生活	0.23	1.09	異性関係	9		
1.33	祖先の祭	10	思いやり	0.22	1.05	趣味娯楽	10	趣味娯楽	0.18
		11					11		
		12					12		
		13					13		
		14					14		
		15	異性関係	0.14	0.79	家計	15	暴力せぬ	0.14
1.06	子供可愛 夫の世話	16	夫の世話	0.12	0.77	政治社会	16	思いやり	0.13
0.99	趣味娯楽	17	他人交際	0.10	0.75	家庭犠牲	17	飲酒せぬ	0.08
0.98	子供教育	18	子供可愛	0.08	0.65	仕事熱心	18	身内交際	0.04
0.93	他人交際	19			0.60	飲酒せぬ	19		
0.87	身だしなみ	20	交際理解 夫に従順	0.07	0.53	家事分担	20	食物好み 賭事せぬ	0.03
0.86	差出ない	21	趣味娯楽	0.05	0.52	会合出席	21		
0.57	異性関係	22	家事熱心	0.04	0.51	食物好み	22	仕事熱心 家の中心	0.02
0.21	食物好み	23	親を大切	0.03	0.31	家事干渉	23	性生活	0.01
0	経済協力	24	身内交際	0.02	0.21	賭事せぬ	24	家事分担	0
平均値 =	1.19			0.12	平均値 =	0.98			0.07
割合 =	9.9	:		1	割合 =	14	:		1

② 役割期待と役割実現のズレ

問題夫婦と一般夫婦の役割期待と役割実現のズレの比較は表7-2に示した。

表7-2にみられるように、ズレの平均値が問題夫婦は一般夫婦に比べ夫は14倍、妻は10倍も高い。したがってこのことを念頭において比較しなければならないが、問題夫婦は夫も妻も、一般夫婦に比べ、思いやり、身内交際の項目の期待と実現のズレの値が大きい。ということは、期待度が高いため実現とのひらきが大きくなったのである。

### Ⅲ 要 約

本稿に用いた3つの夫婦役割調査は、その役割期待値の得点法、役割項目の構成や項目の表現法に違いがあり、そのままでは比較できないので、修正、調整をはかって、比較検討した。

- 1) 図1-1, 図1-2では、昭和37年, 昭和47年の夫と妻の役割期待の推移が定性的, 定量的にわかるように図示したのであるが, 図によると, 時代の推移にかかわらず夫と妻は伝統的な夫と妻の役割分担を期待していることがわかった。
- 2) 役割期待の順位から昭和37年と昭和47年を比較した結果も上記と同様で, なお夫も妻も昭和47年の方が, 身内交際をより期待する傾向がみられた。
- 3) 図2では, 昭和47年の妻が有職, 無職の場合の違いを定性的・定量的にあらわしたのであるが, 妻が働いていても, いなくても夫と妻の役割分担に大差がないことがわかった。
- 4) 問題夫婦と一般夫婦を比較すると, 問題夫婦は役割期待と役割実現との差が大きく, このことから問題夫婦の家庭における態度の一端がうかがわれた。

### む す び

総理府の労働力調査によると女子雇用者（非農林業）の有配偶率は、昭和37年＝32.7%、昭和47年＝46.2%、昭和50年＝51.3%と漸増している。いわゆる、共働き夫婦がふえたのである。しかしながら本調査によると、家庭内における夫と妻の役割期待は、伝統的な夫と妻の役割分担が期待される傾向は、時代の推移につれ、むしろ強くなっている。このことは昭和48年のNHK調査<sup>4)</sup>で、わが国では共働きの妻自身が夫の家事参加に反対する率が39.0%であることと符合している。

今後、夫と妻の役割期待にどのような変化がみられるか、これからの調査研究に望んでやまない。

(昭和54年8月21日受理)

### 引 用 文 献

- 1) 小山 隆編著：現代家族の役割構造 培風館（1967）
- 2) 丸山直子：都市雇用家族夫婦の役割構造 家庭科教育 No.47, V. 8 33～37（1973）
- 3) 久武綾子：夫婦の役割分担に対する期待と現実 家政学雑誌 No.28, V. 2 63～67（1977）
- 4) NHK調査：「働く女性の意識」に関する報告書 ジュリスト総合特集3. 306（1976）